

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

平成 24 年度 第2回市民意見交換会 概要

「事業会社設立に向けた意見交換会」

日時：平成 24 年 10 月 5 日（金）18:00～20:00

会場：川東タウンセンターマロニエ

3 階 集会室 301

出席者（五十音順 敬称略）

- ・小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

【会長】鈴木博晶

【コーディネーター】志澤昌彦

【委員及び関係者】井澤幸雄、大嶋啓介、西山敏樹、原正樹、古川晴基

【オブザーバー】古屋将太、山下紀明

- ・小田原市事務局

環境部副部長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進係員 3 名

- ・参加者

参加者総数：19 名

結果概要

<1 開会>

<2 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会 会長あいさつ>

<3 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会の検討状況について>

コーディネーターの志澤委員から、小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会の検討状況について説明があった。

事業会社は、ファンドによる市民出資を資金源として民有地における「大規模太陽光発電事業」と公共施設における「屋根貸しソーラー事業」を実施する。全量売電による事業収入をもとに出資者へ還元を行う。この事業スキームについての事業採算を検証した。

太陽光発電事業は、売電先が決まっているため安定した事業収入が見込めるが、ファンド規模が小さい初期段階では、十分な会社経費等を捻出することまではできない。このため、一定規模の売電収入が見込める「大規模太陽光発電事業」を計画策定する。

本年秋、遅くとも 11 月上旬までに事業実施主体となる“株式会社”を立ち上げ、年度内に電力会社との連系協議を終了させる。太陽光発電システムの設置工事及び「市民ファンド」による募集は、来年度に行う予定である。

事業会社の資本構成については、市内事業者から合計 3,000～5,000 万円程度の出資を募り、事業会社を立ち上げるものとする。将来的に市民の株主としての参加（増資）を

想定している。

代表者等の経営陣については、事業の初期段階では事業収入が少ないため、ほぼ“ボランティア”の状態となることが見込まれるほか、会社経営や再生可能エネルギーについての知識と経験を持ち合わせた熱意が求められる。

協議会は、地域のエネルギー源の多様化のため、太陽光以外の再生可能エネルギーについても事業化検討を行う。平成24年8月に「小水力発電事業化検討チーム」を立ち上げた。今年度については、市内の河川等における小水力発電設備の設置候補地を選定する。

<4 ワークショップ形式による意見交換>

参加者を4～5人ずつの4班に分け、それぞれの班で意見を出し合った。

【テーマ】“あなたが応援したい会社はどんな会社？”

【進行役】西山敏樹

【ファシリテーター】1班：古川晴基、2班：志澤昌彦、3班：古屋将太

4班：原正樹

主な意見（班ごとの発表）

1班

- ・小田原の太陽光発電所がしっかりと発電していることを発信し、地域の基準となるようにしたい。
- ・小田原での取組が、再生可能エネルギーの普及を助け、世の中のエネルギー政策に繋がって行くと良い。

2班

出てきた意見を「会社理念」、「社会的責任」、「信頼感」、「繋がり」、「小田原ならではの」といったジャンルに分けた。

- ・利益追求だけではない、社会的責任を基盤とし事業を進めていくべき。
- ・年齢層を問わず、みんなで参加できるような事業の進め方が望ましい。
- ・事業に参加する人々も、共に達成感を得たい。
- ・会社の核となる人間は、カリスマ性が大事である。
- ・補助金に頼らない経営方針が大切である。
- ・ファンドによって集めた資金管理など、事業の透明性を保つべきである。
- ・地域全体で会社を育て上げる。

3班

- ・出資する人々全員が、事業に参加していることを実感できるようにしたい。
- ・信頼性、透明性が高い会社であってほしい。
- ・事業会社の取組が、地域の豊かな生活と社会の創造に繋がって行くと良い。

4班

「どういう会社であってほしいか」、「どういう事業をしていくべきか」という2つの意見に分けることができた。

- ・小田原という地域性を活かし、地域から発信して行くことがみんなの誇りとなるようにすべき。
- ・出資をしたくなるような事業の“意義”をもっと考えるべき。昨今のメガソーラー等の建設ラッシュと同様になってはいけない。
- ・会社の運営、情報の透明性、会社としてしっかり運営してほしい。
- ・事業の永続性が大切である。市長や代表者が代わっても事業を続けてほしい。
- ・会社がこの先どこに向かって行くのかをはっきりと示すべき。

全体を通じ、井澤環境部長から感想

ワークショップ形式という意見交換は非常に新鮮であった。「みんなが参加できる」、「会社の透明性」といったような共通の意見を大事にしたい。このような意見を会社の設立趣意書の作成に役立ててもらいたい。“夢のある、将来性のある会社をみんなで作っていく”ということを再認識できた。

<5 その他>

<6 閉会>